



ワイン・ スクール通信

「生きる」を学ぶ・・仙台市立広瀬小学校

2009年6月30日 東京修学旅行

初めての「東京修学旅行」の目的は、ラオスとの交流を通して東京でなくてはできない経験、色々な方の『生きる』に出会い、学ぶこと・・・。

六本木ヒルズのすぐ近く、テレビ朝日通りの角を曲がると、ラオスの国旗が翻っている建物が。「わあ～ ラオス～！」子どもたちから思わず歓声が上がりました。いよいよ、ラオス大使館を訪問です！100人規模の受け入れは初めて・・・という大使館では、シートン駐日大使の秘書・カムラーさんと、日本人スタッフ広瀬訓子さんが笑顔で迎えてくださいました。まずラオスを紹介するDVDを視聴、それから子どもたちの質問に答えます。事前に戴いていた4つの質問に、カムラーさんはびっしり書き込まれた何枚もの書類を用意されていて、丁寧に答えていきます。その他の質問にも、一人ひとりの名前を確認し、「〇〇くん、ラオスに興味をもってくれて、大使館に来て下さってありがとう！」と言葉をかけられていました。ラオスの方の礼儀正しさ・誠実さを感じました。

たくさん色々なことをお聞きしたかったですが、「展示室」へ移動。機織機や色とりどりの民族衣装、竹の伝統楽器やもち米入れ（ティップカオ）、名産品のコーヒーやパーシーの儀式に使うパークワンなどが展示されています。カムラーさんもすっかり子どもたちとの交流を楽しんでいる様子で、ケーン（ラオス笙）や



一人ひとりの質問に答える



ラオス大使館員 カムラーさんとラナート（鍵盤）を鳴らして、紹介してくださいました。

夕食後には、宿舎で「ラオス交流会」が開かれました。

アジアで音楽活動を行っているGYPSYQUEENさんが、子どもたちのために作った「フレンドシップソング」を紹介。いつか、アジアの子どもたちと一緒に歌いたい・・・と願いをこめて、akiさんはアコースティックギター、masaoさんがアフリカの打楽器カホンで演奏、広瀬小のみなさんと合唱しました。

「僕らは、音楽を演奏してあげているんじゃないで、演奏させていたでいる。聞いてもらっているんだ。あげてばっかりだと、いつか心はからっぽになっちゃうけど、僕らはいつもいただいて、もらっているから、いつも心はとっても豊かなんだ」(akiさん)

「僕らとの出会いをきっかけに、何かを感じてくれたらとってもうれしいです！」(masaoさん)



NHKプロデューサーのキャリアを活かし、JICA専門家としてラオスで番組制作指導のボランティア活動をされた菊地良一さんは、米蒸し器や魚を入れるかご、民族衣装など、生活雑貨をたくさん持参くださいました。子どもたちは、「本物」に実際に手を触れ、まさにラオスを体感することができました。

戦後の幼少時代、食べることが生きること・・・という経験をされている菊地さんからの『生きる』メッセージとは・・・

「今の日本のように、条件が整いすぎ栄養も十分で、便利すぎる生活では、『生きる力』が衰えてしまいます。日本を、滅びさせないために。。。ラオスの勉強を通して、『生きる力』や『我慢する力』を身につけてください。」

夜9時近くまで、瞳を輝かせて一生懸命お話を聞いた広瀬小の子どもたち。ゲストスピーカーのみなさんも、「最初は不安だったけど、本当に話をよく聞いてくれてびっくりしました」(GYPSYQUEEN viviさん)「広瀬小のみんなと会えてよかった！」とのことでした。



「修学旅行で学んだこと・考えたこと」（広瀬小6年生）

今回の修学旅行でラオスのことが詳しく知れたのでとても良かったです。学校の総合で色々調べていたので「新しいことあるかな？」と思っていたけれど、まだまだ知らないことがたくさんありました。交流会ではジブシーQueenさんが言っていた「音楽は国境をこえて友達になれる」という言葉がすごく心に残りました。菊地良一さんは「日本は便利すぎる」と言っていました。私はそれを聞いてたしかに便利すぎるかもと思いました。そしてラオスの子はすごいなと思いました。(S.Aさん)

修学旅行で一番学んだこと、考えさせられたことは交流会での菊地さんのお話です。菊地さんは「このままでは日本は滅びてしまう。なぜならば今の日本はもったいなさ過ぎるからだ。ご飯の食べ残しの量がすごく多い」と言っていました。他にも「今の世の中は便利すぎる。人間は欲望を全てかなえてはいけないんだ。」とも言っていました。僕はこれらのことから、ご飯を残さない、水を大切に使う、電気は誰もいないときは消す、ムダな物は買わないなど、自分にできることを少しずつ実践していこうと思いました。(T.Sくん)

今回の修学旅行で学びを感じたことは、やはり総合でやっているラオスのことでした。ラオス大使館に行ってラオス大使館の役割とラオスの観光のことをビデオで見ました。役割とは主に、ラオスと他の国が仲良くする手伝い、それぞれの文化を教え合う、日本に住んでいるラオスの人のサポートです。僕はこの体験から大使館というのは、その国の人にとって頼りになる、心のよりどころのような大切な場所なんだなと思いました。そして、国をこえて仲よくしたいという気持ちがとても印象に残り、すごいなと思いました。

(S.Hくん)



ワンコイン・スクールプロジェクト 第2回の集い 6/21に開催！

第1回(3月)に参加くださったメンバー(仙台からは電話で参加！) プラス、福島県東館小穴戸校長先生とPTA会長佐藤さんが、SKYPE(インターネット通信)にて参加！！お互いの活動を報告しました。

「こういう活動は、日ごろの授業や生活の中で醸成されるものだと思います。“根拠”を沿えながら、子どもたちに**伝え続ける**ことが大切です。子どもにとって、“現実を味わうこと”“自分たちの行動がどのようにつながるのか、その過程と成果が見えること”は、とても大切です。**何よりも、子どもたち自身が活動と呼びかけていく、子どもが子どもを動かす・・・というところが大切だと思います。**」(小野江校長先生)

「学校単位を離れて、家庭などで取り組みやすいよう、お手伝いカードやがんばりカードのフォームや、募金のとりまとめ方法を、わかりやすくしてもらえるとよいかな。」(鬼形まりさん談)

ポンタン小の『交流の部屋』のデザインを日本の子どもが考えたら・・・？など、新しいアイデアも。皆さまからのご意見・アドバイスを活かし、具体的にしていきます。



福井支部

「丸岡中文化祭(9/12-13)、丸岡南中文化祭(9/13)にむけて、生徒会が中心となり、お互いに連絡を取り合いながら校内にPRしていきます。こういう活動は、打ち上げ花火ではなく、じっくり時間をかけて取り組むことが大切だと思います」(両校長先生談)

武蔵村山市立第十小学校

「八小の小野江校長先生にお話と趣旨を伺い、とても大切なことだと思いますので、ぜひ協力したいと思っています。」(榊校長先生談)10月の学校公開(授業参観)時にAEFAの出前授業を取入れ、ご父兄の理解を得てから活動を開始する予定です。

今後のスケジュール

9月下旬 日本の交流校の先生方が、ポンタン小学校を現地視察します。

10月下旬 第一次取りまとめ、報告を行います。

11/1(日) (10/31から変更になりました)

「第4回 AEFAフォーラム」で、子どもたちによるプロジェクト発表を行います！

「橋幼稚園 & 横浜支部

細く長く続けていこう」

三上園長先生が中心となり、今年も支援活動を計画中の橋幼稚園。

「ラオスのかぼちゃを育てて、かぼちゃスープを学苑祭で売ってみよう！」

「チャリティコンサートを開いてみよう」など、**すすく育つかぼちゃ** 橋幼稚園らしい手作りのアイデア。

「こういう活動って、細く長く続けることが、一番大切だと思うんですね。今年はさんねん、しょぼん、あんまり盛り上がりませんでしたね、だったとしても、さて来年はどうかな～？っていう風に、途中でやめないことが大切だと思います」(三上先生談)

横浜支部でも、子ども達がおかあさんと話し合っ、「お兄ちゃんのお弁当をつめる」「タオルをたたむ」「たまごをわる」「1人でお風呂に入る」など、色々なことをがんばって、ワンコイン・プロジェクトに参加してくれています。



亀之園あおとくん



小林ひなたくん



小林ななはさん

ポンタン小の建設 進んでいます



ずいぶん学校らしくなってきました(2009年6月撮影)

コップチャイ！(ありがとう) 子どもプロジェクトを応援 している大人たち・・・ その3

「日本の子どもたちがアジアに興味を持ってくれるのなら、どこにでも出張演奏会をやりに行きますよ～～！！」音楽を通して日本とアジアの子どもをつなぐ・・・温かい応援をしてくださっている GYPSYQUEENのみなさんです。



ラオス ビエンチャンにて
子どもたちとの交流